

(5) “なんばんBOOK” －我が町の順番早わかり～面積・収量等－

なんばん???,平成7年7月が初刊ですが、発刊当時は「なんばんBOOK」って何ですか?、とよく言われたものです。本を開いてアーなるほど、何番のなんばんか…。 問い合わせの多い、○○の作物で一番多い市町村はどこですか、わが町は何番ですか、上位の市町村を教えてくださいなど、関係機関、農業団体はもとより最近では小学生から授業の課題として問い合わせがあります。こうした問い合わせに対して素早く対応できるようにと、最新データを基に北海道内の212市町村について一目で分かるように順位付けしてはと始めたのがきっかけでした。

早速、平成10年産小麦のランキングをみてみますと、作付面積は1位－音更町、2位－帯広市、3位－芽室町、収穫量は1位－帯広市、2位－音更町、3位－芽室町となっています。全国に対する北海道の収穫量のシェアも、グラフで70%と示しています。

最新は、Vol.5まで発刊されていますので、「なんばんBOOK」という名称をはっきりいって来られる方が多くなりました。統計データをちょっと加工したことによって、様々な関係機関や多くの方々に活用されていることは、大変ありがたいことです。

発刊当手を振り返ってみますと、当時の掲載データは耕地面積、農作物、畜産物、農業粗生産額などで112項目、154ページでした。刊行物がマスコミにも報道されたことから予想以上の反響があり、その内容も「新聞で見ましたが興味深いので、ぜひ分けていただきたいです。」、「作付け、収量などの地域がわかるので…。」、「市町村のPR紙、地域の活性化の資料に…。」、「農業機械を扱っている会社ですが…。」、「有機質肥料を納めている会社ですが…。」、など会社関係も多くありました。この他にも○○新聞、○○市民生協、石油輸送会社、○○宅急便、ダンボール会社、観光バス会社など様々なところから反響がありました。統計データの利用の仕方にも、このような使われ方があるものなのかと驚いたものでした。

農業改良普及センターや市町村からも、「さっそく使わせていただきま

す、ぜひ毎年発行していただきたいものです。」「収量順位については、少しでもランクを上げる励みになります。」という意見もいただきました。

編集スタイルも照会時の要望も取り入れて、市町村の特産物・観光関係、市町村の花・木などの文字情報も掲載したところ。最新号では、全国のランキングについて、一部の作物等で30位まで掲載しています。今後とも内容の充実を図るため、利用者の方々からの貴重な意見をいただければと思います。

また、「なんばんBOOK」以外にも、国際統計を含む農林水産業の統計データや農林水産行政情報等について、情報提供していますので気軽にお問い合わせください。

<藤村 謙二>



なんばんBOOK